

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200437		
法人名	株式会社メディカルコーポレーション		
事業所名	グループホームあおいの憩		
所在地	静岡市葵区古庄1-7-45		
自己評価作成日	平成23年10月16日	評価結果市町村受理日	平成23年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2294200437&SC

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成23年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気が入居者様、一人一人にあった支援をさせて頂く。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「家庭的な雰囲気」という事業所を目指して、そのためには朗らかで優しく、利用者を中心に置くことができる職員づくりに取り組んでいる。本年は事故防止委員会、コンプライアンス委員(法人推進)がスタートし、「言われたことをやる」というスタンスから「身体拘束なのかどうか」「なぜ、事故が起きるのか」と考えることができるようになり、職員が自律的になったという成果がある。職員は同調ができ、チームワークもよいことが利用者への対応でも確認できた。訪問時も本部からアドバイザーが同席していて、組織体制の厚みも感じられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議時等に話し合いをし実践につなげるようにしています。	玄関に掲げ、毎日目に触れ意識に届くよう工夫している。また、管理者は「自分の身になって」ということを常に職員に伝えている。	理念を体現できているかどうかについて、職員で話し合うなど振り返りの機会を設けることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、川掃除・イベントに参加させて頂いています。	事業所の畑で大根を作ってくれたり、丹精込めた大輪の菊を届けてもらっている。事業所からも餅つき大会の餅を届けるなど、双方のやりとりがある。自治会にも加入していて、地域の川掃除や草取りにも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会のイベントに参加させて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に行っており、ご意見をいただいたり、情報交換をしています。	偶数月の第4木曜日と決まっているため、管理者もスケジュールの調整に努め、またメンバーの集まりも良好である。年2回、終了後に家族会を併催している。バーベキューなどのイベントも用意しているため、家族から好評を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	課題等があった際は、連絡・相談させて頂いています。	書面は直接届けるようにしている。運営推進会議には包括の職員が参加してくれていて、日頃も親身に相談にのってもらっている。麻機地区の連絡協議会にも参加し、事業所間の連絡にも努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社外に研修に2名が参加したり、会議の際に話し合い現状をふまえてケアしています。	玄関が自動ドアであるため外部からの侵入を防ぐという目的で施錠をしている。利用者が玄関に向かったり、出たいとの意向が確認されたような場合は、職員が付き添い出るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議で日々、話し合い外部研修も2名の職員が参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議等で勉強会を行っていききたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、分からない事は聞いて頂き納得していただけるように説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・家族会・面会時にご意見等、伺い運営に反映できるようにしています。	例えば餅つき大会では自発的に大根や餡など材料を持ち寄ってくれるなど、日頃から協力的である。管理者は月に1回、「ご家族の手紙」に心身の様子を添え、面会の少ない家族にも情報が届くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議・食事をしたり、都度、職員に声を掛け話を聞くようにしています。	法人から月1回分の親睦会費用も用意されていて、オープンに話せる機会がある。個人面談は定期には行っていないが、気づきがあれば管理者が声を掛け、時間をとるようにしている。ボード購入など業務向上への職員意見は随時あり、大半が実現できている。	年に1～2回は個人と落ち着いた話をすることを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	相談出来る体制はできています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回管理者研修・ケアマネ研修を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずはホームの生活に慣れて頂けるように、ご本人の様子をみながら行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時等に、ご家族の要望を聞いたり、日頃の様子を伝え安心して頂けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日々の様子を職員同士、細かに情報交換して必要なサービスを見極めるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の言動に耳を傾け共感し一緒に喜び、楽しむように心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に生活の様子をお伝えし、ご本人にも、ご家族の事をお伝えし良い関係が続くように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも訪問して頂けるようにしています。月1回ご家族に手紙で往診や日頃の様子を伝えています。	家族の許可を得て、友人や親戚の訪問も歓迎している。また、職員の働き方に家族の共感も年々得られるようになり、面会時の雰囲気も和やかなものになっている。バイオリンの演奏のボランティア訪問も定期的になってきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、職員が間を取り持って良い関係を築ける努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族から、要望があれば、相談や支援に努めるようにしますが、現在のところ、事例がありません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月ユニット会議で話し合い、思いや意向を把握して統一した支援に努めています。	入浴時や夜勤などマンツーマンになれる時間を活かし、意向を汲み取るよう心がけている。アセスメントは入居時以降、とりなおしてはいない。	折を見て、アセスメントのとりなおし及び定期的な作成について検討いただきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人と会話をしたり、ご家族に話を聞き、これまでの暮らしの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、変化するご本人の様子を密に情報交換し見逃さないように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、ユニット会議で話し合い、それに基づいた介護計画を作成しています。	ケースファイルにプランを付け、常に職員の目に入るよう工夫している。そのため、プランを意識した現場になりつつある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かく記録するように心がけ、申し送りも1・2Fで行い情報交換しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	“できる・できない”に関わらず、ご本人にとって一番良い事は何かを考え、サービスに取り入れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全を確保しながら、楽しく暮らせるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診があり、往診の結果やご本人の様子・体調をご家族に報告しています。	協力医の場合は職員が付き添うようにしているため、切り替える場合が多い。医療情報はファイルに一括し、すぐに取り出せるようになって、有事に備えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご本人の体調の変化を見逃さないようにし、都度医師・看護師に報告・相談をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、退院後の事について、ご家族と病院側と話し合いをしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の思いを大切に職員が理解し要望に応えられるようにしています。	家族の意向があれば、看取りには取り組む考えがあり、実績もある。早い段階から、家族と協力医と事業所で話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時の行動の指導は行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月避難・誘導の自主訓練を行っています。運営推進会議にて災害時について話し合いました。	2階から1階への避難誘導訓練は、合同食事会を兼ね毎月取り組んでいる。食事会後はレクもあり、利用者に自然な形で訓練を取り入れてもらっている。本年から風呂に生活用水を溜めることを始めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者、一人一人に言葉の掛け方や対応を変えその人に合った対応に努めています。	利用者に同調したゆったりとしたリズムの声掛けをする職員ばかりなことからも実践が確認できた。尊厳やプライバシーの確保については特別ルール化せず、本人の要望に添って取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が“どうしたいのか”を聞くように心がけています。また、2～3つの選択肢を出して、自己決定できるように声掛けをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自室や、リビングで過ごされたりと、ご本人のペースで過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る洋服を、ご本人に選んで頂いたり、ブラシを渡して自分でとがして頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べやすい工夫をしたり、皿の使い方・盛り付け方も考えています。テーブル拭き・配膳の手伝いをして頂いています。	野菜や果物の繊維質が豊富でたんぱく質も摂れていて、バランスのよいメニューである。食べたいものを選択してもらおうバイキング形式にも取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を細かく記録し、内容や声掛けを工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来ない部分は、お手伝いをし行っています。必要に応じて歯科受診を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間でトイレ誘導を行っています。様子を細かに見て状態によってオムツ・パット・布パンツの使用を使い分けています。	失禁があるからオムツというように理詰めで行うのではなく、その人がそのようにする機能や状況、気持ちを確認し、原因を把握したうえで取り組み方法を決めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を摂って頂くように声掛けしています。様子によって医師に相談、下剤を服用して頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調はもちろん希望やタイミングに合わせて入浴されています。茶殻を入れて入浴して頂いたり工夫しています。	できるだけ自立で入ってもらいたいと考えているが、マンツーマン介助で取り組んでいる。希望があれば毎日入ることができるが、苦手な場合は2～3日をめやすに誘い方を工夫し、清潔保持に努めている。茶ガラを干したものを入れるようになってから水虫も減っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、ご本人の体調に合わせて休んで頂いています。夜間は皆さん良く休まれています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人に合わせて服薬の支援をしています。症状に変化があった時は医師に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	踊りの観賞・バイオリン演奏会等、ボランティアに依頼して楽しんで頂くようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族と外出される方もいます。地域の行事に参加できる方はして頂いています。	ADLの低下とともに日常的な散歩が難しくなっていて、玄関前のベンチでの外気浴が増えている。外出が難しいため、レクではボウリングや玉すくいなど職員の創意工夫がみられた。家族が外泊などに連れ出してくれる利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでは、お金の所持はしていませんので、ご本人の希望や必要な物があれば、ご家族へお願いしたり、ホームの方で購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自らの要望がない為、ご家族から電話がきた時に取り次ぐようにしています。手紙は書ける方はしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファを置きゆっくり過ごして頂けるようにしています。	1階には畳のエリアがあり2階にはないという違いはあるが、それぞれの職員でソファの配置や備品を工夫し、利用者それぞれの居場所づくりが叶っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファをリビングや玄関に置き好きな場所で過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたタンスを置いて頂いています。	各部屋には作品や写真などが飾られ、家族や職員の配慮が感じられた。また、耳が遠く時間にこだわりのある利用者には、文字で大きくスケジュールを掲示していて、個別ケアができていたことも視認された。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりがついています。トイレ・自室・浴室等に表札を付け分かるようにしています。		